

第4章

事業の実施



日本国内活動の概要

外国参加青年は平成28年1月14日に来日した。翌15日の夜に開催した歓迎レセプションでは高木宏壽内閣府大臣政務官が歓迎の挨拶を行った。1月16日から19日にわたり、外国参加青年に対して三泊四日の地方プログラムを実施した。1月18日からは、日本参加青年の出航前研修をオリンピックセンターで開始し、19日の夕方に地方プログラムから帰京した外国参加青年が合流し、全参加青年そろって本格的に陸上研修を開始した（研修の成果については第5章を参照）。

1月20日から1月26日まで実施された陸上研修中、各国のNLとANL1名は、20日に皇太子殿下への御接見を賜った後、安倍晋三内閣総理大臣表敬を行った。

1月23日にはレター・グループ別に分かれて、日本参加青年が外国参加青年を案内する都内視察を実施し、26

日には、研修の中心的プログラムであるコース・ディスカッションの六つのテーマ別に、コースの内容に即した課題別視察を実施した（課題別視察の成果については第5章を参照）。

1月27日には、国際連合大学を訪問し、武内和彦国連大学上級副学長の挨拶と、国連大学サステナビリティと平和研究所（UNU-ISP）シニア・アカデミック・プログラム・オフィサーのスリカンタ・ヘーラト博士による講演を聴講した後、国際連合に関する質疑応答を行った。同日の午後、参加青年は横浜へ移動し、にっぽん丸に乗船。28日には、船上でオープンシップ（船内見学会）と出航式を行い、16:00に横浜港大さん橋国際客船ターミナルを出航した。

地方プログラム

岩手県（チリとタンザニア参加青年）

月 日	時 間	活動内容
1月16日 （土）	10:23 - 12:33 13:00	東京駅より盛岡駅へ（はやぶさ13） アイーナ（いわて県民情報交流センター）着 ホームステイマッチング ホームステイ家庭への引渡し
1月17日 （日）	終日	ホームステイ
1月18日 （月）	9:00 10:00 14:00 - 14:30 18:30 - 20:40	ホームステイ家庭より集合 南昌荘着、日本文化体験 達増拓也岩手県知事表敬訪問 歓送会
1月19日 （火）	9:30 - 11:10 12:50	盛岡中央高等学校訪問 盛岡駅より東京駅へ（はやぶさ18）



チリとタンザニアの参加青年は、明治18年に建てられた盛岡市の「保護庭園・保護建造物」に指定されている南昌荘を訪れ、伝統的な日本の遊びを体験した。また、達増拓也岩手県知事を表敬訪問し、温かい歓迎を受けた。盛岡中央高等学校では、1年生の英語の授業に参加したり、柔道の授業を見学したりした。

山梨県（パーレーンとロシア参加青年）

月 日	時 間	活動内容
1月16日 (土)	10:00 - 11:28 12:00 13:30	新宿駅より甲府駅へ(スーパーあずさ11) 防災新館着、昼食 ホームステイマッチング ホームステイ家庭への引渡し
1月17日 (日)	終日	ホームステイ
1月18日 (月)	9:00 9:20 11:00 13:30 18:30	ホームステイ家庭より集合 阿部邦彦山梨県教育委員会教育長表敬訪問 県庁にて山梨県の紹介 甲府市内散策 歡送会
1月19日 (火)	9:00 - 12:45 13:29 - 15:04	山梨英和中学校・高等学校訪問 甲府駅より新宿駅へ(かいじ112)



パーレーンとロシアの参加青年は、山梨県を訪問した。雪の影響で当初のプログラムが変更となったが、二泊三日のホームステイを通じて山梨県について深く学んだ。ホームステイの後には、山梨英和中学校・高等学校訪問での文化交流プログラムや調理実習を共に楽しんだ。

福井県（オーストラリアとインド参加青年）

月 日	時 間	活動内容
1月16日 (土)	10:33 - 12:45 12:56 - 13:59 14:25 - 14:45 14:45 15:00 - 16:30	東京駅より米原駅へ(ひかり509) 米原駅より福井駅へ(しらさぎ7) 福井県パレスホテル着、観光DVD上映 ホームステイマッチング 歓迎会及びホームステイマッチング ホームステイ家庭への引渡し
1月17日 (日)	終日	ホームステイ
1月18日 (月)	8:30 10:00 - 12:00 12:15 - 14:30 15:45 - 16:15	ホームステイ家庭より集合 和紙の里会館訪問 第9代 岩野市兵衛(人間国宝)による説明、紙すき体験等 仁愛大学訪問、ディスカッション交流会 西川一誠福井県知事表敬訪問
1月19日 (火)	11:36 - 12:44 12:58 - 15:10	福井駅より米原駅へ(しらさぎ58) 米原駅より東京駅へ(ひかり520)



オーストラリアとインドの参加青年は、和紙の里会館を訪問し、人間国宝の第9代岩野市兵衛氏に紙すきを学び、実践した。仁愛大学では大学生とのディスカッション交流を行うほか、その後の西川一誠福井県知事表敬訪問、高校生との交流も行われた。

三重県（ニュージーランドとスリランカ参加青年）

月 日	時 間	活動内容
1月16日 (土)	9:20 - 11:01 11:30 - 12:19 13:00 - 14:00 14:00 - 16:15	東京駅より名古屋駅へ(のぞみ217) 名古屋駅より津駅へ(近鉄161) 高田会館着、オリエンテーション 歓迎会及びホームステイマッチング ホームステイ家庭への引渡し
1月17日 (日)	終日	ホームステイ
1月18日 (月)	8:45 10:30 11:30 13:30 16:30	ホームステイ家庭より集合 ハイトピア伊賀訪問、忍者講座 忍者博物館訪問、グループ散策 忍者ショー鑑賞 植田隆三重県副知事表敬訪問
1月19日 (火)	9:00 12:48 - 13:16 13:42 - 15:23	四日市博物館訪問 四日市駅より名古屋駅へ(近鉄1112) 名古屋駅より東京駅へ(のぞみ226)



ニュージーランドとスリランカの参加青年は、二泊三日のホームステイを満喫した。18日には、三重県のローカルコースとともにハイトピア伊賀を訪問し、忍者講座を受けたほか、忍者博物館を訪問し、グループ散策で交流を深めた。忍者ショーの鑑賞もあり、外国参加青年は「忍者」に深い興味を示していた。

滋賀県（メキシコとUAE参加青年）

月 日	時 間	活動内容
1月16日 (土)	9:50 - 12:08 14:00 14:00 - 15:30 15:30 16:00 - 17:00	東京駅より京都駅へ(のぞみ105) 草津市立まちづくりセンター着 滋賀県子ども県議会小・中学生との交流、 日本文化体験 オリエンテーション ホームステイマッチング ホームステイ家庭への引渡し
1月17日 (日)	終日	ホームステイ
1月18日 (月)	8:30 10:00 - 10:40 13:00 - 15:00 15:15 - 16:00 18:30 - 20:30	ホームステイ家庭より集合 三日月大造滋賀県知事表敬訪問 彦根城観光 玄宮園で茶道体験 歓送会
1月19日 (火)	13:05 - 15:23	京都駅より東京駅へ(のぞみ226)



メキシコとUAEの参加青年は、滋賀県子ども県議会小・中学生との交流で習字や日本の遊びを楽しんだ。また、井伊直継・直孝によって約20年の歳月をかけて建設され、元和8年（1622）に完成した彦根城を訪問したほか、表敬訪問では、「世界青年の船」事業の既参加青年でもある三日月大造滋賀県知事との国際交流に関する和やかな懇談が行われた。

直前研修

1月18日から一泊二日で実施した日本参加青年の直前研修では、NL及びSNL主導で乗船に向けた心構えと意識の統一をした後、委員会別ミーティングで各活動の運営方法などについて検討した。また、ナショナル・プレゼ

ンテーションの練習やリハーサル、セクシャル・ハラスメントを予防するために話合いの時間などを設けた。IDI調査実施に関連した説明と講義もこの研修中に行われた。

陸上研修・船上研修

1月20日から27日までオリンピックセンターで実施した陸上研修及び1月28日から2月29日までにつぼん丸で実施した船上研修では、午前2時限、午後2時限、夜1時限

を使って様々な研修が行われた。それぞれの詳細と成果については、第5章を参照のこと。

1 委員会活動

船内活動の時間を効果的に使い、実りある活動を実施するため、参加青年で構成される委員会（委員は各国又は各グループから選出）を組織した。

活動を企画・実施する過程において、多国籍のメン

バーで構成される委員会では協議を重ねることにより、国際的な場面における合意形成とリーダーシップの取り方を学ぶことをねらいとし、そのねらいは、各活動が成功裏に終わったことから達成できたと考えられる。

AGL委員会

各レター・グループのアシスタント・グループ・リーダー（AGL）を構成員とするAGL委員会では、全参加青年の健康管理補助を目的とした「点呼と体温測定」を行ったり、感染症等予防のための「AGLによる朝の健康促進体操」「感染症等予防策のポスター掲示」などの活動を自発的に計画して行い、インフルエンザ等の感染拡大の防止に貢献した。

船内で開催されたAGLミーティングは、管理部からの伝達事項を確認するだけでなく、グループ間の連絡・調整や、委員会活動として行うべきことについて話し合う場としても活用された。管理部からの伝達事項は、その後行われたレター・グループのミーティングで、グループ内の参加青年に周知された。

コース・ディスカッション運営委員会

コース・ディスカッションの円滑な実施のため、管理部、アドバイザー、参加青年を構成員とするコース・ディスカッション運営委員会を組織した。その役割は以下のとおり定められ、実行された。

- ・ ファシリテーターを補佐し、コースの運営に協力する

- ・ 参加青年からの意見がある場合、代表してファシリテーターにその意見を伝える
- ・ 導入フォーラムとサマリー・フォーラムの企画・運営をし、必要な物品を手配する
- ・ 所属するコースのまとめのレポートを書く

各種セミナーの委員会

アドバイザーによるセミナーの円滑な実施のため、異文化理解、リーダーシップ、プロジェクトマネジメントの各セミナーの委員会を組織した。その役割は以下のとおり定められ、実行された。

- ・ アドバイザーの指示に基づき、セミナーの運営に協力する
- ・ セミナーの一部については、委員会が中心となって企画・運営をする
- ・ セミナーのレポートを書く

PYセミナー委員会

「社会をより良くするための取組」というテーマに基づき、社会問題やボランティア活動等を自分自身の経験や専門分野を参考に、ワークショップやディスカッション等、参加青年が講師となって積極的にセミナーを開催した。その結果、発表者のプレゼンテーション能力や自主性が強化されるとともに、参加青年のバックグラウンドや活動について学ぶことができ、青年同士の相互理解や国際的視野の拡大が図られた。

PYセミナーは1月25日、2月6日、20日の午後で開催され、主催者はそれぞれ1時限（75分）又は2時限（150分）を使ってセミナーを企画・運営した。参加青年は興味のあるテーマのセミナーに積極的に参加し、参加青年の持つ知識や経験を共有した。参加青年セミナー委員会はスケジュール管理や機材の準備等、各セミナーが円滑に進むようサポートをした。

ナショナル・プレゼンテーション委員会

ナショナル・プレゼンテーション（NP）は各国の参加青年が、国ごとに、自国の歴史、文化、伝統芸能そして政治や経済等の社会一般について紹介することで、参加各国に対する理解と感謝の念を深めるとともに、自らの国の事柄について再認識することを目的として実施した。

参加各国は45分という限られた時間で自国をいかに分かりやすく紹介するか、練習や議論を重ね、プレゼンテーションを作り上げる過程を通じて協働意識を共有し、より強い団結力を育んだ。プレゼンテーションでは美

しい伝統舞踊、音楽、写真や映像などを使って歴史や文化を紹介する一方で、その国の社会問題を取り上げるなど、各国とも工夫が凝らされており、異文化への理解とその多様性に対する共感を得られる作品が多かった。

参加青年で組織したNP委員会は、リハーサルから発表に至るまでのスケジュール管理、照明、音響の機械操作や会場の飾り付けなどの後方支援を精力的に努め、各国の発表の成功に寄与した。

イベント委員会

イベント委員会は、1月22日に開催されたスポーツ&レクリエーションと、2月27日に開催されたフェアウェルを企画・運営した。また、インド及びスリランカの訪問国活動において、各国の文化を紹介するミニ・ナショナル・プレゼンテーションを実施した際、司会や発表者の誘導などを担当した。このほか、イベント委員会が主催して、参加青年の才能を披露する「タレントショー」を自主活動として実施した。

スポーツ&レクリエーションは準備運動から始まり、レター・グループ対抗の「障害物競走」「ジェスチャーゲーム」「綱引き」といった種目で親睦を深めた。

フェアウェルでは立食の夕食会の時間を使い、事業中に結成されたバンドが作詞作曲した歌、各国参加青年代表によるスピーチ、各国の参加青年が事業期間中に習得したソーラン節などが披露された。

文化紹介活動（クラブ）委員会

参加青年が主体となって、文化にまつわる自分の特技（ダンス、歌、伝統芸能など）を他の参加青年に教える活動として、文化紹介活動（クラブ）が実施された。委員会は、クラブ主催者と連携し、参加青年の所属クラブ

を決定し、2月1日、8日、18日に実施されたクラブの運営のサポートと、2月22日に実施されたクラブの成果を発表するエキシビションの企画・運営を担当した。

2 その他の研修と活動

事後活動セッション

日本青年国際交流機構の事後活動派遣代表者の3名が、事業終了後の活動の説明及び国内や世界各国のネットワーク作りについて説明するためにシンガポールから東京間に乗船し、2月23日及び24日に事後活動セッションを開催したほか、セッション以外の時間には、船内でSWYAAの活動や事後活動を紹介するインフォメーション・デスクを設置し、参加青年と直に意見交換や情報提供を行った。



グループ活動

日本参加青年と10か国からの参加青年約20名で構成されたA～Kのレター・グループで様々な活動を行った。レター・グループは活動の際、基本となる活動単位で、陸上研修では1月23日に日本参加青年が計画した都内視察を行い、船上研修中は毎日夕方に30分のグループ・ミーティング

の時間を取った。このような活動を通じて、単なる情報共有のみならず、問題や喜びなども共有し合い、きずなを築き親睦を深めた。また、日々のグループ・ミーティングでは、その日に達成したことや、翌日の目標を定める時間を取った。

自主活動

休日や自由時間及び1月20日の夜や2月23日の午後の時間を利用して、共通の興味や関心を持つ参加青年の自発的なアイデアによる様々な活動が行われた。企画・運営のすべてが参加青年たちによって行われ、それらの活動を通して参加青年間相互の理解と親交を深めた。



酒大学：日本酒について学びを深める自主セミナー

修了式・帰国後研修

2月27日、ドルフィンホールにおいて修了式を行った。修了式では、厳かな雰囲気の中で修了証の授与が行われ、各国のNLが代表して壇上で修了証を受け取った。その後、参加青年を代表してニュージーランドのNLのテ・オランガ・ウィテヒラ氏がスピーチを行った後、上村秀紀管理官からあいさつがあり、閉会となった。なお、この修了式では国際連合大学からも修了証が授与された。

平成28年2月29日及び3月1日の二日間は日本参加青年に

対し、オリンピックセンター及びフクラシア品川クリスタルスクエアにおいて帰国後研修を行った。研修では、6月に実施される帰国報告会に向けた準備等を行ったほか、NLによるプログラム振り返り等を行った。また、本事業で得た知識や経験などをいかす事後活動のネットワークについて日本青年国際交流機構の代表者より説明された。

閉講式では修了証の授与を行い、小野田壮内閣府大臣官房審議官から参加青年へ修了証が渡された。